

花きの県別生産出荷概況(7月見通し)

品目	県名	作型	主要品種	出荷期		出荷見込み		7月のピーク(%)			主産地
				期間	作付面積	出荷総数	京浜地域向	上旬	中旬	下旬	
				(ピーク)	ha (前年比)	千本 (前年比)	千本 (前年比)				
トルコギキョウ	山形	加温 無加温 シエード・加温	ボヤージュシリーズ ロジーナシリーズ セレブシリーズ 他白八重 他ピンク八重 他八重 一重 他	6月～11月  (7月～10月)	  100%	746  100%	560  100%	30	30	40	JA庄内たがわ JA鶴岡 JA余目町 JA新庄もがみ JAやまがた JA山形市 JA山形もがみ
	北海道	促成～	ピッコローサスノー ジャスニーホワイト	5～11月	2,207	3,976		20%	50%	30%	由仁町 JAそらち南
			クラリスピンク 海ほのか	8～9月	97%	108%		10%	20%	70%	
	福島	施設		5～11月 (8-9月)	11 100%	300 102%	230% 100%	25%	35%	40%	喜多方 坂下 北会津
	群馬	施設(促成)	ロジーナ ボヤージュ バルカン ほか	周年 (6～11月)	6.2 (100)	280 (96)	243 (94)	20	30	50	昭和村 沼田市 富岡市
千葉	施設		4～8月 (6月)  10～12月 (11月)	7.2  100%	460  100%	345  100%	35	35	30	館山市、鴨川市、南房総市 (丸山・千倉)	
デルフィニューム	北海道	促成	オーロラブルーインブ トリトンライトブルー スーパーグランブルー スーパーシフォ	6～11月 (7～9月)	2916.8 99%	6654.8 100%		30%	30%	40%	新ひだか町 JAみついし



品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
トルコギキョウ	山形	○今年は、生育期間の気温が高温年であった昨年に比べ低く経過していることから、出荷開始時期は、昨年より1週間程度遅れ気味である。 ○一部で立枯れ症状がみられるものの、切り花品質は良好である。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> <p>主産地は、愛知、長野、北海道。各産地とも株養成に入り、数量は大きく減少した。業務需要中心に引き合いが強くなり、品薄傾向となった。</p>
	北海道	4、5月の低温の影響で生育が遅れているので、出荷時期も例年より遅れている。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> <p>大田花き 各産地大きく減少していることから、品薄状態が続く。暑さに強い品種だけとなり、品種数、色が限られてくる見込み。</p>
	福島	一部地域で生育不良となっているものの、概ね例年並みの出荷数量。気温上昇とともに出荷量増える見込み。	<p>FAJ 新盆需要で前半やや動きあり。産地は引き続き東北主体となる見込み。</p>
	群馬	主産地は昭和村、沼田市の中山間地へ切り替わり、7月上旬から出荷が始まる見込み。春先の低温、最近の朝晩の冷え込みから若干生育に遅れが見られるが品質等には影響ない。病虫害等の発生も見られない。	<p>東日本板橋花き 6月の低温により高冷地が2週間程遅れており、6月下旬から入荷が少なくなる見込み。</p>
	千葉	①天候不順の影響で6月出荷の生育が遅れており、7月に出荷が集中する見込み。 ②ポヤージュ系を中心に八重品種が中心。 ③JA安房南房地区は6月13日に出荷査定会(目揃い会)を開催し、適当な側枝(蓄)数、及び花しめ対策の徹底について確認を行った。	
デルフィニューム	北海道	スプレー系は春先10日～14日遅れていたが、6月後半～8月に向けて出てくる見込み。八重系も今まで通り出てくる見込み。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> <p>シネンシス系は、暖地の入荷が纏まり数量多く、販売は厳しい状況。 エラータム系に関しても、暖地・高冷地の出荷が重なり数量多く、厳しい販売状況。</p>
			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> <p>大田花き シネンシス系・エラータム系共に暖地が出荷終盤となり、高冷地主体の荷姿となる。数量は昨年並みとなる見込み。</p> <p>FAJ 引き続き輸入主体の入荷続く。ニュージーランド産中心の入荷となる見込み。</p> <p>東日本板橋花き</p>

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
アルストロメリア	北海道	5月は日照が多く生育が順調であったため若干前倒しになった、6月からの曇天により出荷量は減少した。今後は7月は新株が出てくるため出荷数量はやや増加する見込み。	<p><b>現状</b> 主産地は、愛知、長野、北海道。各産地とも株養成に入り、数量は大きく減少した。業務需要中心に引き合いが強くなり、品薄傾向となった。</p> <p><b>見通し</b></p> <p>大田花き 各産地大きく減少していることから、品薄状態が続く。暑さに強い品種だけとなり、品種数、色が限られてくる見込み。</p> <p>FAJ 長野・山形より引き続き入荷。数量は昨年並みを予定し、底値安定した相場での取引が見込まれる。</p> <p>東日本板橋花き 青森県・北海道の入荷。業務中心の動き。</p>
	北海道	5～6月の低温の影響が心配でしたが、生育はおおむね順調です。7月に入ると、関東盆需要を見込んだシヌアータが各色まとまって出荷になる予定です。	<p><b>現状</b> シヌアータは北海道、長野主体の出荷。シネンシス系は北海道主体で、色目によりやや不安定な入荷となった。ハイブリットは山形中心となり、上位から纏まった入荷が続いた。販売は、シヌアータは業務、加工中心の動き。シネンシスは加工、ハイブリットはブライダル、小売り中心に、落ち着いた取引が続いた。</p> <p><b>見通し</b></p> <p>大田花き シヌアータ、シネンシス系は徐々に増加傾向。ハイブリットはピークを越え減少傾向となる。販売面では、7月盆需要で引き合い出るが、それ以降は落ち着いた取引となる。</p> <p>FAJ 引き続き北海道からの入荷。紫主体の入荷で新盆需要で前半やや動きあり。</p> <p>東日本板橋花き 新盆需要中心。北海道産、秋田産I、山形県産中心の入荷。</p>
スターチス	北海道	7月上中旬は越冬株のホワイト、イエローを中心に出荷される予定です。下旬になると3色(ホワイト、イエロー、ピンク)を中心に新植株も含めて出荷される予定です。	
	秋田県	例年と比べ1週間ほど遅れている。6月のピークは中旬だった。作付の減少に伴い、出荷量も減少。来年以降は作付も増え、出荷も増加していく見込み。	
バラ	群馬	梅雨に入ったものの天候に恵まれており生育並びに品質は良好。また、環境制御システム(細霧冷房や炭酸ガス施用)の効果も見られるため、前年に比べ出荷量は増加する見込み。	<p><b>現状</b> 西南暖地、高冷地ともに切り花サイクルが重なり、需要に対し入荷過多になっている。ブライダルも非常に少なく、販売に苦戦。輸入品も原価割れをする価格での取引が続いている。</p> <p><b>見通し</b></p> <p>大田花き 山形、宮城の高冷地がメインとなる。静岡、愛知、群馬の暖地は、下位等級中心の出荷となり、厳しい販売が予想される。輸入は、後半よりケニア、エクアドル産の出荷が再開する予定。</p> <p>FAJ 引き続き高冷地主体の入荷。イベントなどで金曜日やや動きあるものの全体に軟調。</p> <p>東日本板橋花き 高温になるとともにバラ需要が徐々に減少。しかし入荷量は増加するため、やや厳しい販売が予想される。</p>
	静岡	春先から改植されていた方もおり、県全体では大きな減少にはなっておらず、今後もダラダラ横ばいの出荷が見込まれる。乾燥傾向で害虫発生が増えている。また、時期的に花シミ等の発生が増え、出荷調整を行っている産地もある。	